

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

産業と文化の経営人類学的研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-02-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/4504

産業と文化の経営人類学的研究

Anthropology of Administration
on Industry and Culture

中 牧 弘 允 (編)

国立民族学博物館

Hirochika Nakamaki (ed.)

National Museum of Ethnology

2009

目 次

研究組織

はしがき

中牧弘允 1

第一部 環黄海经济圈の産業と都市における文化創造・文化交流

- 中牧弘允 環黄海における産業と文化の交流―「つなぎとめるもの」をとおして― 5
- 澤木聖子 「朝鮮通信使」の行列再現行事にみる環黄海の地域間交流
―下関・馬関まつりを中心に― 17
- 曹 斗燮 環黄海经济圈における港湾都市の競争力に関する研究 25
- 陳 天璽 チャイナタウンを通してみる環黄海经济圈の産業と文化 45
- 具 知瑛 中国青島のコリアンタウン―移動するモノや人を結ぶ空間― 55
- 澤野雅彦 姉妹都市と東アジアのスポーツ交流―大連の野球を中心として― 67
- 晨 晃 大連の日本人社会
―ソーシャル・キャピタル投資活動と現地社会への影響― 87
- 金子 毅 色彩なき環境からの文化創造
―北九州における公害闘争と城山小学校のメッセージ― 107

第二部 世界遺産をめぐる産業振興と文化復興

- 中牧弘允 世界遺産としての熊野とサンティアゴ・デ・コンポステラ
―地域と宗教のイノベーション― 137
- 住原則也 奈良吉野と世界遺産―「世界遺産化」現象の一事例として― 147
- 中牧弘允 中国における儒教復興の諸相―北京と曲阜を中心に― 153
- 住原則也 泰山調査の報告 167

第三部 文化活動を機軸とする産業と都市の協働関係

- 三井 泉 都市経営の「ビジネスモデル」としての祭り
―青森・五所川原・弘前の「ねぶた」調査を中心として― 173
- 竹内恵行 祭りの経済効果―競争と協調― 185
- 出口竜也 企業と祭り―阿波おどりと高知よさこい祭りを事例に― 195
- 岩井 洋 異文化理解の経営人類学―韓国・仁川市の事例― 213

研究組織

研究代表者	中牧 弘允	国立民族学博物館・民族文化研究部・教授
共同研究者	陳 天璽	国立民族学博物館・先端人類科学研究部・准教授
連携研究者	岩井 洋	関西国際大学・人間学部・教授
	澤木 聖子	滋賀大学・経済学部・教授
	澤野 雅彦	北海学園大学・経営学部・教授
	住原 則也	天理大学・国際文化学部・教授
	竹内 恵行	大阪大学・大学院経済学研究科・准教授
	曹 斗燮	横浜国立大学・大学院国際社会科学研究科・教授
	出口 竜也	和歌山大学・観光学部・教授
	晨 晃	神田外語大学・異文化コミュニケーション研究所・准教授
	日置弘一郎	京都大学・経済学部・教授
	廣山 謙介	甲南大学・経営学部・教授
	三井 泉	日本大学・経済学部・教授
研究協力者	金子 毅	東京基督教大学・神学部・助手
	小谷 幸子	国立民族学博物館・外来研究員 京都外国語大学・非常勤講師
	具 知瑛	神戸学院大学地域研究センターPD
海外共同研究者	金 鳳徳	東北財経大学・教授
	李 元範	東西大学・教授

はしがき

研究の目的

産業と文化の相乗効果は近年ますます意識的に追求されるようになってきている。行政が主導する場合もあれば、産業界が牽引する場合もあり、また文化団体が率先して働きかける場合もある。いずれにしろ、ばらばらな動きを統合する機能（政治・経営）がその成否の鍵を握っているといっても過言ではない。本研究ではマネジメント（経営）に焦点を当てながら、産業と文化の相関関係を実証的に究明することをめざした。

産業活動と都市行政の関係は近年、経済優先・文化軽視から産業と文化の融合する街づくりへとパラダイムシフトをおこしつつある。文化産業の振興による活性化を旗印とする都市も増加の一途をたどっている。本研究は、産業と都市の新しい協働関係（パートナーシップ）に着目し、人類学的手法による国内外の事例研究をとおして、企業文化と都市経営の実態を分析し、モデル化することを目的としている。

産業と都市の新しい協働関係の特徴は従来型の税金納付や行政指導にあるのではなく、文化創造や環境整備による都市空間の活性化を共通目標として、たがいに連携をはかるところにある。産業と都市はそれぞれ文化の創造的な担い手であると同時に、連携するパートナーでもある。そのため企業文化を企業自体の経営手法や文化活動をとおして分析するだけでは不十分であり、都市の文化政策との協働関係のなかで位置づけることが必要となる。

産業文化の自覚的形成について、また文化創造における産業と都市の協働に関しては、近年さまざまな取り組みがなされており、「企業の社会的責任（CSR）」「創造都市」「創造産業」「文化産業」などが経営学、経済学、都市計画等の分野で脚光を浴びるようになってきている。本研究は経営人類学の立場から、文化を自覚的に意識した企業活動や都市経営について、とりわけ経営手法や協働関係における価値観・世界観の解明をめざして実施された。

領域1 環黄海経済圏の産業と都市における文化創造・文化交流

近年における環黄海経済圏の経済的発展は刮目すべきものがあり、中国の東北三省の玄関口大連には日本企業が大企業から中小企業にいたるまで製造業を中心に約2500社が進出している。日本企業の多くは立地優位性と歴史的親和性を進出動機としている。他方、大連は「経済技術開発区」に早くから指定され、外資企業の誘致を積極的におこない、「北の香港」をめざしてきた。最近では重厚長大産業からソフトウェア産業に転換し、ソフトウェア会社が大学を設立するまでになり、日本にも卒業生が多数就職するようになってきている。他方、北九州学術研究都市には早稲田大学大学院情報生産システム研究科、IT高度化センター等があり、ソフトウェア工学を専攻する中国からの留学生も多い。

従来、環黄海経済圏については経済発展に資する研究が盛んにおこなわれてきたが、本

研究では文化創造・文化交流の観点から、産業と都市の関係を再措定しようとする。まず日系企業における「経営の現地化」がどのようになされているかを分析する。とくに企業文化の形成に地域社会・地域文化がおよぼす影響に焦点を当てる。また日系企業が個別に、あるいはJETRO大連事務所のような組織を通じて都市建設・都市経営にいかなる役割をはたしているかを調査した。

あわせて釜山では文化都市政策で脚光を浴びている創造性インデックスにもとづくクリエイティブ・クラス（R・フロリダのいうアーティストやプロフェッショナルなど文化創造的職種に従事する階級）の調査を実施した。

領域2 世界遺産をめぐる産業振興と文化復興

ユネスコの世界遺産登録は近年の産業振興と文化復興（自然保護）の相乗効果をねらった典型例といえる。伝統文化の振興が現代の産業と連動し、新しい文化創造がなされ、未来文明への活路を開くとすれば、世界遺産は経営人類学的研究に値する。世界遺産は従来、もっぱら観光・資源の面で注目をあつめてきたが、産業と文化のマネジメントという観点から検討する余地を残している。なぜなら、IT 関連産業の発達や創造産業の興隆との相互作用がみられるからである。そこでは伝統文化が文化創造を刺激し、先端産業が文化遺産の価値を高めることに貢献するというような関係が構築されつつある。

研究対象は「紀伊山地の霊場と参詣道」、中国の「泰山」、「曲阜の孔廟、孔林、孔府」、ならびにスペインの巡礼地サンチャゴ・デ・コンポステラである。「紀伊山地の霊場と参詣道」は吉野・熊野・高野山の霊場とそれをむすぶ参詣道であるが、山岳信仰・神道・陰陽道・密教が習合した独特の宗教文化を歴史的に形成してきた。中国の「泰山」は山東省泰安市にある道教の一大聖地であり、五岳のひとつに数えられている。「曲阜の孔廟、孔林、孔府」も山東省にあり、それぞれ中国最大の孔子廟、孔子とその一族の墓地、孔子の子孫の居住地であり、儒教の聖地として最高峰に位置している。最初の3つの世界遺産は東アジアの代表的宗教の聖地であるところに共通性があり、宗教と産業の経営的諸側面を実証的に比較研究する格好の対象でもある。また、「紀伊山地の霊場と参詣道」は奈良・和歌山・三重の三県にまたがった登録であり、サンチャゴ・デ・コンポステラに次ぐ巡礼道としての世界遺産である。

領域3 文化活動を機軸とする産業と都市の協働関係

文化活動を基軸に据え、産業と都市の協働関係を深化・発展させるこころみは世界各地でみられる。イタリアのボローニャや金沢はその典型だが、スペインのビルバオ、横浜など枚挙に暇がない。本領域では文化活動としての祭りに焦点をしばり、青森、徳島、高知、東京を中心に調査した。青森市ではねぶた、徳島市では阿波踊り、高知市ではよさこい祭りの調査をおこない、都市祭礼における産業と都市の関係に着目した。青森市においてね

ぶたは観光資源として地域文化を担っており、企業も競って参加・協力する。阿波踊りでは徳島新聞社の支援体制は絶大で、踊りの集団（連）には企業連も多数参加する。よさこい祭りは商工会議所が中心となって発足、阿波踊りを参考によさこい鳴子踊りを考案した経緯がある。そのよさこいと北海道のソーラン節を合体させてはじまった「よさこいソーラン」は国内のみならずサンパウロにまで伝播し、札幌会場を頂点とする勝ち抜きシステムはビジネスを意識して成立している。

これらの新しい祭礼は産業と都市の協働関係を分析する新しい枠組みを要求している。都市連携型祭礼（東北三大祭のひとつとしてのねぶた）、マスコミ系（阿波踊り）、ネットワーク系（よさこいソーラン）のような分類枠組の提示にとどまらず、経済と経営を基礎に文化活動の現代的意義をあきらかにする。換言すると、現代の文化創造において明示的に戦略化・戦術化される経済的マネジメントの実態を把握することが課題である。

一方、環黄海経済圏には姉妹・友好都市関係にもとづくネットワークが形成されつつある。1991年に設立された東アジア（環黄海）都市会議には現在10都市（北九州、下関、大連、青島、仁川、釜山、天津、福岡）が参加し、2004年には東アジア経済交流推進機構の創設をみている。前者では市長会議、経済人会議、文化交流、スポーツ交流などが試行され、中国・韓国の経済的發展に刺激され後者の発足につながった。とりわけ注目になるのは「ものづくり」に特化した都市イメージをもつ北九州市が「北九州市ルネッサンス構想」をかかげ、「ものづくりのまち」を牽引する文化政策を産・学・官・民が協働して推進していることである。また、仁川市においても中東文化院の開館・閉鎖・再開が市長の掲げる都市政策と密接に関連しているし、韓国移民史博物館の開館も韓国移民の発祥地としての仁川市の地政学的位置づけと連動しながら、それらが都市経営に動員されている。

本書の構成

第一部は領域1「環黄海経済圏の産業と都市における文化創造・文化交流」に対応し、8つの報告が収められている。第二部は領域2「世界遺産をめぐる産業振興と文化復興」に関する報告が4つ収録されている。第三部には領域3「文化活動を機軸とする産業と都市の協働関係」について4つの報告がある。

中 牧 弘 允
国立民族学博物館